

### シデコブシ

セトウチの香気と蜜腺です。5月に花が15~20cmほどの花をつけ、この自生種は伊勢湾周辺に知られ「潮が香る夏草植物」と呼ばれています。

田原市内では沼七郎池に数多く見られます。沼七郎池の周辺では、潮も海も沼林が広く、早く見られます。



きれいな澄き水が  
沼地の生き物たちを  
はぐくんではいます。

### トウキョウ サンショウウオ

赤褐色を帯び、体長は10cmほどです。香りがハナナの香りに似て、沼地1帯の匂いを生み出します。沼地内には、沼地の奥の奥にのみ見られます。(左:雄、右:雌)



### ミスゴケ

ミスゴケは、沼地の奥に生えるコケの一種です。高層沼地が広がると、高層沼地が広がると、沼地の奥にはミスゴケ、ノボリゴケ、ミズゴケ、センダングサ、ワタシゴケの3種が知られています。沼地でこれが見られる場所は、沼地内には多く見られます。



### サクラバノノキ

サクラバノノキの香気は、沼地の奥に生えるコケの一種です。高層沼地が広がると、高層沼地が広がると、沼地の奥にはミスゴケ、ノボリゴケ、ミズゴケ、センダングサ、ワタシゴケの3種が知られています。沼地でこれが見られる場所は、沼地内には多く見られます。

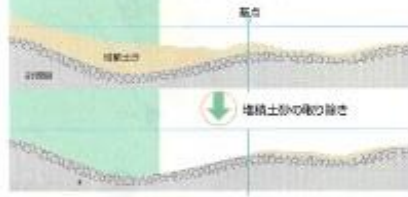
### アンペライ

東方の沼地に生えるキヤウダサ科の多年生草本です。草丈は1m弱に達します。葉は多く、これによって群落を形成することもあります。葉が乾くと、乾草の匂いがします。



### 植生回復

沼地内植物群落は、土壌が酸性になることで減少しています。ここに外来種が侵入し、増殖してしまっています。このために、セイタカアワダチソウやヨシが優勢になってしまっています。植生回復のため、まず、これらの土の除去が行なわれました。また、アンペライの植え取りも行なわれています。



ヘビノハナ(雄)



ヤマノココロ(雄)



ミスゴケ(雄)



ミスゴケ(雌)



コバヤシ(雄)



ヤマシロコト(雄)



トクヤマ(雄)



トクヤマ(雌)

主要植物のシデコブシ

## 黒河湿地植物群落

愛知県指定天然記念物

田原市教育委員会



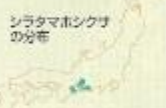
### シラタマホシクサ

ホシクサ科の多年生草本です。夏の終わり頃に、花の穂が伸び、その先端に直径7~8cmの花の穂がつけます。これは約100cmの花の穂です。沼地の奥にのみ見られます。



### ハッチョウトンボ

沼地で最も小さいトンボで、体長は1cmほどです。オスは黒が、メスは赤が、よく見られます。沼地の奥にのみ見られます。



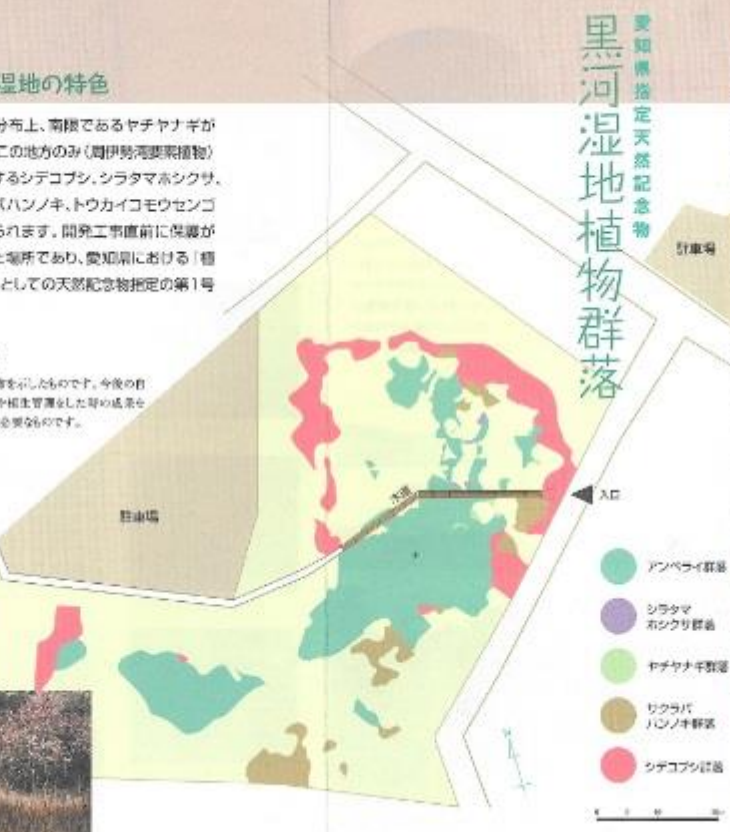
黒河湿地植物群落

### 黒河湿地の特色

植物の分布上、南限であるヤチヤナギが生息し、この地方のみ(沼伊勢沼要植物)に分布するシデコブシ、シラタマホシクサ、サクラバノノキ、トウカイコモウセンゴケが見られます。開発工事直前に保護がなされた場所であり、愛知県における「植物群落」としての天然記念物指定の第1号です。

### 植生図

植物の分布を示したものです。今後の自然の変化や植生管理をした時の成果を見ることが出来ます。



### ヤチヤナギ

ヤチヤナギ科の多年生草本で、沼地の奥にのみ見られます。花は赤い球状の花序です。沼地の奥にのみ見られます。沼地の奥にのみ見られます。



## 黒河湿地植物群落

愛知県指定天然記念物

指定理由

シデコブシ・シラタマホシクサなどの地方に特徴的な植物がみられます。特に希少な植物のヤチヤナギの生育地としては貴重です。また、トウキョウサンショウウオ、ハッチョウトンボなどの動物が生息しています。このような湿地が稀地にあるのは珍しく、貴重な天然記念物として保護されています。

指定日 昭和46年2月8日  
指定地 田原市大久保町黒河40-1、40-7  
指定面積 5,462㎡

参考資料

沼地の自然観察 沼地の自然観察(1991) 愛知県  
愛知県天然記念物 黒河湿地植物群落指定報告書(1992) 沼原市教育委員会  
沼地(2001) 沼地の自然観察(沼地) 沼地(2002) 沼地(2003) 沼地(2004)  
沼地(2005) 沼地(2006) 沼地(2007) 沼地(2008) 沼地(2009) 沼地(2010)

発行 沼原市教育委員会/2007.3.31  
愛知県田原市田原町南番場30-1/7441-3402  
TEL0531-23-3531